

Key Words : ①臨床実習 ②理学療法学生 ③学内演習

I. はじめに

平成14年度から、我々は理学療法学科3年生を対象に「問診技術」、「動作分析技術」および「理学療法過程」の再学習を促す目的で学内演習を実施してきた。これは旧カリキュラムでは2年生に実施される臨床評価実習終了後、約1年間学外での実習を体験できないことによる学生の不安な感情を軽減する効果が期待された。過去の学内演習では「動作分析技術」を含めた理学療法過程の意義、理論、手順などの講義、紙上患者を用いた理学療法過程の体験や疾病者の動作風景を取めた映像メディアを供覧させることを行ってきた。

そこで、平成16年度も初期総合臨床実習に出る前の本学科3年生に学内演習プログラムを計画・実施し、その教育効果について検討したので報告する。

II. 研究方法

対象は本学科3年生(4期生)のうち、学内演習に参加した者であった。なお、今回(平成16年度)の演習は4回(6月、7月、9月及び10月)実施した。学内演習は以下の2種類から構成されていた。

1) 紙上模擬患者・リハビリテーション処方例を使用して予測技術向上を目指した演習

学生を数名単位のグループに分け、予め紙上模擬患者・リハビリテーション処方例について数件用意し以下の思考過程を滞りなくできるように学習させた。①年齢、性、疾患、生活習慣などから、疾患、障害についての予後予測をさせる。②また治療プログラムを遂行させるために必要な留意点とチェック項目を列挙させる。③模擬患者の現象(特徴的な運動や動作)からその原因を連想させる。④その原因に対する治療項目の選択および治療方針について企画させる。⑤思考過程のうちどの過程で考えが滞るか討議をする。これらの演習終了直後にアンケートを実施し、対象者の学びについて調査した。

2) 映像メディア教材(有疾者の動作風景)による理学療法評価の実際に関する演習

この演習を実施する前に「動作分析学」の講義を実施し、手順およびそのねらいについて教授した後に学生を数名単位のグループに分け、作成した映像メディア教材を用いて、「動作分析技術」についての演習を実施した。1)と同様に演習終了直後にアンケートを実施し、対象者の学びについて調査した。

Ⅲ. 結果

1. 紙上患者による理学療法過程の演習後のアンケート結果

設 問	n=19			
	1. 全くそう 思う	2. どちらとも いえない	3. 全くそう 思わない	無回答
1. 理学療法過程の基礎知識を復習できたと思う。	89.5%	10.5%	0.0%	0.0%
2. 統合と解釈についての知識は大体確認できたと思う。	73.7%	21.1%	5.3%	0.0%
3. 今回の演習のようにロールプレイで行うのは理解しやすい。	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%
4. 紙上患者シートで障害を把握するのは難しい。	78.9%	15.8%	5.3%	0.0%
5. 疾患は適当であったと思う。	89.5%	10.5%	0.0%	0.0%
6. グループ討議に参加できて有意義であった。	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%
7. 全体討議に参加できて有意義であった。	73.7%	10.5%	10.5%	0.0%
8. 演習全体を通して意義があったと思う。	84.2%	10.5%	0.0%	5.3%
9. 演習全体を通して全く理解できなかった。	0.0%	10.5%	89.5%	0.0%
10. この時期にこのような演習を行うことは意義あると思う。	89.5%	5.3%	0.0%	5.3%
11. このような演習は後輩にも続けた方が良いと思う。	94.7%	5.3%	0.0%	0.0%
12. 初期総合実習に対して全く参考にならないと思う。	0.0%	0.0%	94.7%	0.0%

2. 映像メディア教材を用いた動作分析技術に関する演習後のアンケート結果

設 問	n=19			
	1. 全くそう 思う	2. どちらとも いえない	3. 全くそう 思わない	無回答
1. 動作分析の基礎知識を復習できたと思う。	78.9%	21.1%	0.0%	0.0%
2. 動作分析についての技術は大体確認できたと思う。	47.4%	52.6%	0.0%	0.0%
3. 今回の演習のようにロールプレイで行うのは理解しやすい。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4. 動作分析トレーニングシートは使用しやすいと思う。	36.8%	63.2%	0.0%	0.0%
5. 模擬患者を演ずるのは難しい。	57.9%	26.3%	5.3%	10.5%
6. グループ討議に参加できて有意義であった。	21.1%	52.6%	0.0%	26.3%
7. 全体討議に参加できて有意義であった。	42.1%	26.3%	5.3%	26.3%
8. 演習全体を通して意義があったと思う。	89.5%	10.5%	0.0%	0.0%
9. 演習全体を通して全く理解できなかった。	0.0%	15.8%	84.2%	0.0%
10. この時期にこのような演習を行うことは意義あると思う。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11. このような演習は後輩にも続けた方が良いと思う。	94.7%	5.3%	0.0%	0.0%
13. 動作分析学の講義は有意義であった。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12. 初期総合実習に対して全く参考にならないと思う。	0.0%	5.3%	94.7%	0.0%

Ⅳ. まとめ

平成16年度に本学科3年生を対象に計画・実施した学内演習から以下の結果が得られた。

- 1) 紙上患者による理学療法過程の演習後のアンケート結果から、過半数が知識の復習ができたと回答し、約90%の学生がこの演習の意義を認めていた。但し、自由記述には理学療法過程に関して復習ができたがむずかしい点もあること、対象者のイメージが浮かびにくいことが挙げられていた。
- 2) 動作分析技術に関する演習後のアンケート結果から、過半数が動作分析の基礎知識は復習できたと回答していたが、この技術の確認や演習全体を通じての理解は、84.2%の学生が概ねできたと回答していた。
- 3) 今回の学内演習を受講した学生は理学療法過程の技術的な難しさを実感出来、また自分の抱かえる課題を明らかにすることが出来た。